

## 小田急が箱根に100億円の大型投資

小田急グループは2020年の東京五輪・パラリンピックを前に、神奈川県内随一の観光地である箱根の輸送サービス向上に力を入れている。18年から3ヵ年計画で総額100億円規模の大型投資を行い、「ここでしか得られない」特別な思い出を提供するのが狙い。すでに新型海賊船(観光船)の建造、箱根ロープウェイ(早雲山～大涌谷、大涌谷～姥子～桃源台)の大涌谷駅舎の拡張工事などが完了した。

今年4月に就航した海賊船「クイーン芦ノ湖」のデザインは、JR九州のクルーズトレイン「ななつ星in九州」などを手掛けた水戸岡鋭治さんに依頼した。船体は湖面に映える金色で、内装は温かみのある木材をぜいたくに使用。調度品もクラシック感のあるものをそろえた。総トン数は約319トンで、乗客定員は541人。建造費は約12億5,000万円。

大涌谷駅舎の拡張工事では、駐車場の上部に鉄骨造りの展望コンコース(約175平方メートル)を整備。防弾チョッキなどに使われる頑丈なアラミド繊維のシートを屋根に格子状に敷き詰め、火山活動に伴う噴石などが衝突しても貫通しないようにした。駅舎の収容力も600人から800人に増強。供用開始は今年4月から。総工費は約3億3,000万円。

早雲山駅は現在、箱根ロープウェイと箱根登山ケーブルカーの駅舎が別々になっているが、ケーブルカーの駅舎部の建て替えに合わせてロープウェイの既存駅舎との一体化を図り、駅機能を強化する。また、明星ヶ岳や相模湾を一望できる「足湯テラス」も新設する。総工費は約24億1,000万円。供用開始は20年春の予定。

箱根ロープウェイは21年4月、安全性に優れたスイス・CWA社製の最新型ゴンドラ「TARIS(タリス)」を早雲山～大涌谷間に20台導入する。CWA社は1939年創業のスイスを代表する搬器メーカーで、56年に世界で初めてケーブルカーを開発したことで知られる。タリスの導入は日本初。製造費は約15億5,000万円。

箱根登山ケーブルカーも鋼索線開業100周年(21年)



大型投資の一環として今年4月に就航した「クイーン芦ノ湖」

に向けて、車両の内・外装を大規模リニューアルする。合わせて、ケーブルカー巻き上げ設備を新造し、安全性を高める。更新費用は約7億8,000万円。供用開始は20年4月の予定。

基幹輸送手段の箱根登山鉄道では、今年と20年に新型車両「アレグラ号」を各2両追加導入する。建造費は約12億9,000万円。アレグラ号は14年に就役した眺望性に優れた車両で、15年に鉄道友の会のローレル賞を受賞した。追加導入により、繁忙期には全列車を3両編成で運転することが可能になるという。

18年の箱根の入り込み観光客数は2,126万人(前年比1.2%減)で、3年ぶりに減少に転じたものの2年連続で2,000万人の大台を突破。内訳は日帰り客数が1,673万4,000人、宿泊客数が452万6,000人。宿泊外国人観光客数は前年より5万人増えて59万6,000人となり、6年連続で過去最高を更新した。

今年は5月に火山活動が活発化し、大涌谷周辺の立ち入り規制が続いているが、箱根町役場や観光関連事業者はそのほかの地域の安全性をPRすることで挽回を図ろうとしている。小田急グループの大型投資が火山活動の活発化によるイメージ悪化を払しょくし、箱根が元気を取り戻すことを期待したい。